

第2回 みどり市立学校適正規模・適正配置東地区検討委員会 議事録

○日 時 令和7年1月12日（水） 午後6時30分～午後8時20分

○場 所 東公民館 ホール1・2

○出席者

【みどり市立学校適正規模・適正配置東地区検討委員会委員】 11名

委員長	田口 和人
副委員長	関口 渉
委員	栗原 孝志
委員	小西 明
委員	足立 義継
委員	金子 栄司
委員	湯浅 正雄
委員	伊藤 明日香
委員	前原 一男
委員	高瀬 康子
委員	小暮 真美

【欠席者】 なし

【みどり市教育委員会】 12名

みどり市教育委員会	教育長	保志 守
みどり市教育部	部長	金高 吉宏
教育総務課	課長	今泉 源太郎
学校教育課	課長	神山 亮一
東市民生活課	課長	宮田 輝一
こども未来戦略局	局長	矢島 寿枝
こども課	課長	中山 正之
こども課	課長補佐	長澤 伊知郎
教育総務課	課長補佐	園原 裕一
学校教育課	課長補佐兼指導係長	知久 鉄平
教育総務課施設係	係長	大窪 進
学校教育課教職員係	管理主事	西村 晋一

【報道機関】 桐生タイムス社

【傍聴者】 なし

○議事の大要

1 開会 [開始：午後6時30分]

2 委員長あいさつ

3 協議事項

・前回の協議内容の概要と今回の協議事項について、【資料1】に基づき、委員長から説明。

(1) 東町における保小中一貫教育校について

・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発言者	発言内容
議長（委員長）	それでは「(1) 東町における保小中一貫教育校について」ということで、協議を始めたいと思います。まずは、資料1の〈方向性を得る協議内容〉の①と②についてです。これらは、基本方針や諮問にあった、「小規模校のよさを生かし課題を補う方策」や「東町の自然や特性を最大限に生かした魅力ある学校づくり」に関わってくる内容です。これらを協議するにあたり、現在あずま小中学校ではどのような取組がされているか共通理解した上で、どのように支えたり改善したりしていくかとよいかご意見をいただけたらと考えています。校長先生、現状をお話しいただけますでしょうか。
委員1	①の「個を伸ばす教育を実践していくために必要な取組」の部分ですけれども、まず個を伸ばす教育を実現するために大切なことは何かを考えたとき、それは一人一人の違いを尊重して、その子らしさを生かす環境や学びの機会をつくることではないかと考えました。本校は小規模校なので、よい点としては子どもの顔が全員見えるという強みがあります。全職員で一人一人の成長を見取りながら丁寧に支えることができていると思っています。全教職員が全児童生徒の担任というつもりでやりましょうと4月当初にみんなで確認しました。そんな中で今一番大切にしているのは個別最適な学びという点です。一人一人の実態に応じた指導をみんなで心がけています。例えば、同じ教科を同じ教室で学んでいても、子どもによって違う課題に取り組んでいることもよくあります。それから、子どもの主体性を育てる取組も大切にしています。10月に沢入のキャンプ場で初めて行ったデイキャンプ。また、先日皆さんに見ていただいた運動会では、子どもたちが自分たちで話し合って計画を立てる等、協力して取り組むことができました。今は12月に児童生徒総会を計画しています、その話し合いが進行しています。自分の考えを出し、仲間の意見を受け止める、そして協働して目標を達成する。そういう経験が個を伸ばす学びにつながっていくのではないかと考えています。2学期になって、7年生（中学1年生）が盛んに地域に出て行く学習をしています。子どもの興味や関心を広げて、自分のよさを見つけるよい場になっていると感じています。理想を言えば、地域全体が学びのフィールドとなるよう、他の学年にも広げていきたいと思っています。個を伸ばすということは、学力を伸ばすだけではなくて、子どもたちが自分のよさを発見して、それを生かして生きていく、そういう力を育てることだと認識して共通で取り組んでいます。

②あずま小中学校として、学力を向上させる具体的な取組とは何かというところです。まず「学びに向かう力・人間性の向上」から。学力を向上させるためには、知識・技能を身に付けることはもちろんすごく大事ですが、意欲や粘り強さ、他者と協働するといった非認知能力の育成が重要であると思っています。これを育てずして本当の学力の本質的な向上はないのではないかと考えるくらいです。そこで、今年度は異学年や全校での活動を多く設けて、助け合つたり認め合ったりする中で自己肯定感や社会性を育てようと考えています。先ほども触れたディキャンプや運動会、児童生徒総会はこれに関連するものになると思います。1年生から9年生までが一緒に同じことに取り組むことで、子どもたちは多くのことを学んでいると実感しています。あとは、その中でできるだけ子どもたちに任せることも意識してきました。例えば、ディキャンプでは4、5年生が中心になって準備をしてくれました。4、5年生は1学期に宿泊学習で梅田の方に出かけています。そのときに、ブルーベリーを収穫する体験をしました。すると、子どもたちは、このブルーベリーを先生方にもお裾分けしたいと言って、容器等を準備して実行しました。たったそれだけのことなのですが、自分たちで考えたことが形になっていくことに大きなやりがいや満足感を覚えたようでした。その気持ちがディキャンプでのがんばりにもつながっていたと思います。次に、知識・技能の視点です。ここでは先ほどの個を伸ばす教育と重なるところが多々あると思います。先生方は、子どもたち一人一人の理解度に応じて、その子にとって最適な課題を与えられるように工夫をしてくれています。また、実験や実習では、全員が道具を使って実施できるというところも本校のよさだと思います。大きな学校に見られるような、誰かがやっているのを見て学ぶということは、あずま小中学校には当てはまりません。最後に、思考力・判断力・表現力の視点ですが、これがもしかすると一番弱い部分なのかと感じています。なぜなら、このような力は友だちとの交流の中で生き生きと育つという側面もきっとあると思うからです。そんな考え方もあるのかと気付くことで子どもの思考が広がって、さらにどちらがよりよいものなのか比較・選択することで判断力が働いて、そして自分の考えを伝えたいと思うことで表現力が伸びる。そういう学びの循環を起こすためには、もう少し大きな集団が必要だと思うことは正直あります。その打開策として異学年交流があります。特に中学生にとってはとても有効だと感じています。また、今年から黒保根学園さんとの交流を増やしています。今学期新たに学級活動を合同で行って、一緒にイベントを企画してお互いの学校を盛り上げようという取組もスタートしました。離れた学校とICTを使ってつながるといったことはこれからも続けていけたらと思っています。

最後に、英語やプログラミングについて。いつも本校の特色として挙げられるのですが、こちらはまだ発展途上というところがあります。胸を張って本校の特色ですと言えるように、今先生方の研修を積極的に行ってています。全校で取り組む体制を今後整えていければと思います。学力の向上はテストの点数を上げることではないというところを大切にして、子どもたちの教育に当たっていきたいということが、今年度あずま小中学校が考えてやっていることです。

議長（委員長）	24名の児童生徒のところで取り組まれている様子から、現状と課題についてお話をいただきました。今のお話についてご意見、ご感想、ご質問等ありますでしょうか。
委員2	根本的に考えてもらいたいのは、保小中一貫教育校、これがなぜ出てきたか、事務局に聞きたいと思います。2点目は、地域と共にある学校、いわゆる地域の人口減を抑えるための学校ということですが、やはり地域の方々の理解が大事だと思います。その地域の方々にどのように啓発していくのか、事務局に聞きたいと思います。
議長（委員長）	この2点についてはとても大事なことだと思います。先ほどの学校の現状についてのご意見を伺ってから必ず事務局に発言を求めたいと思います。他の方はいかがでしょうか。
委員3	学校運営協議会では今年から委員にさせていただいて、なかなか学校の中の様子を肌で感じるほど分かってはいませんが、いろいろ工夫されていることは分かります。先日の運動会でも、交流している学年が多い分、中学生にあたる学年が、人数が少ない中でも自分たちの責任を十分果たしていました。大きい集団の中にいたらもしかしたら尻込みしてしまうようなお子さんもそういう力が付いてくるよさは出てきていると思います。ただ、世の中にはもっともっといろいろなことがあるし、いろいろな情報があるということを考えると、総合的に考えていくにはまだ思考の幅が狭いと感じます。自分たちが一生懸命考えたことをやるということについてはとても力を付けてくださっていると思いますが、どうしても思考の範囲が限られてしまうように思います。地域との交流に関して言うと、「学校は自分たちの地域にある大事な存在、宝だ」という意識は本当に薄れてしまっている印象があります。統合する前は、自分たちが住んでいる近くに学校があって、お子さんが学校に通っているいないに関わらず地域の方は学校の教育に関心を持ってくれていましたが、今あずま小中学校は、その面に課題を感じます。学校の努力不足ということではありません。今の状況からは難しいことだと思います。どうすればというところは言えなくて申し訳ないのですが、必要なことだと感じています。
副議長（副委員長）	今、地域との連携ということで、学校はがんばって運動会等行事についての回覧を回してくれていますが、できれば地元の区長さんや老人会の方々に直接文書を届けるだけでもずいぶん違ってくると思います。どのくらい見に来てくれるのか、お手伝いしてくれるのか分かりませんが、もう一步努力をして直接お願いをすることで、友だちを誘って学校に足を運んでくれる方も出てくるかもしれません。もう一段階アップして努力をされてはどうかと思います。
議長（委員長）	今の話は、学校側からの地域への投げかけという部分になりますね。あずま小中学校と地域との関わりについては外せない大きな柱だと思います。協議の順番は前後しますが、まずは地域との交流について協議を進めていきたいと思います。先ほど運動会への参加の呼びかけについての話がありました。そして前回は、学校の存続について心配する声もありました。東地区から学校が消えるという危機感でもあったと思います。地域から見た、地域とあずま小中学校との関わりについてご意見はありますでしょうか。

委員 4	運動会についてですが、神梅小かそれとも福岡中央小だったでしょうか、地域の運動会という形でやっていたかと思います。運動会をそういう形にするのはどうでしょうか。例えば老人会の種目を入れるとか。運動会自体が地域のイベント、完全に地域の運動会のようになっていたと思います。いろいろ運営上難しいところもあると思いますが。
委員 1	そういう考え方もあるよねという話は出てはいたのですが、今年度実施するにはちょっと難しかったです。
委員 4	事前に役員になってもらわなければいけなかつたりしますからね。
委員 1	どこの学校もそうですが、今は半日で終わりになるようにしています。そういう時間の問題や、投げかけてやっていただくときの役員や係も必要になってくるので、今年度はそこまで詰めるまでの話しには至らなかつたです。
委員 4	地域の運動会という形でやっているところは、地域で盛り上がってやろうという気持ちが地域の方があつたのでしょう。だから、だんだんとそういうふうになるようにしていけばいいかなと思います。
委員 2	地域コーディネーターという方は置いていますか。普通はコーディネーターの方が中心になって地域との連携をなさっていると思うのですが。
委員 1	そうですね。何か授業で地域と関わりたいというときにはご相談させていただいています。あと学校運営協議会の皆様にご相談をさせていただいて間に入っていたいたりもしています。
委員 2	ちょっと聞きたいのですが、この地域でいろいろ活動なさっている組織というのは、年々減少しているのでしょうか。
委員 4	そうですね。しているでしょうね。
委員 2	それを考えると、協力してくれる団体がどれほど出てくるか。とても危機的なことだと私は感じています。その組織自体が存続できなくなることもあります。地域文化祭でも解散して出ていない団体がありました。
議長（委員長）	先ほど地域コーディネーターという話がありました。私は存じ上げないのでですが、どんな形でやっているのですか。
委員 1	学校運営協議会の中に、コーディネーター的な立場の方を1人お願いしています。
議長（委員長）	学校と地域を結ぶ役割の方ですね。
副議長（副委員長）	例えば、学校でマスつかみ大会をやろうとしたときに、子どもたちはまだマスを割けないから割ける人を紹介してほしいとか、地域でいろいろな技術を持った人を探して学校と連絡を取り合いながらつないでいくようなことです。 神戸なら、老人会も婦人会もほとんど同じような年代の人たちですから、そういうところに手伝いじゃなくても「学校に来ませんか」とか「運動会に来ませんか」とか通知を出すだけでも違うと思います。そこから何かが生まれればいいんじゃないかなと私は思います。
委員 2	老人会や婦人会の方々は活発ですよね。人ととのつながりが強いから。頼りになりますよね。
委員 4	確かに、まず学校の運動会等にいろいろな方に来てもらう中で、だんだんと

	一緒にやっていきましょうという形にしていくんですかね。いきなり一緒にやろうというのも難しいですよね。
委員 1	そうですね。学校に会議等ができるようなスペースがもう少しあれば、公民館的な扱い方をしていただくのもいいなと思っています。何か会議のような場面でなくとも、地域の方が気軽に寄れるようなことができると、日常的にたくさんお話ができる、「一緒にやりましょう」とか「こんなふうにしたらどう」とアイデアをいただいたりとか、交流の機会が膨らんでくるかなと思います。
副議長（副委員長）	先日、足利市の葉鹿小学校に行ったら、そこには地域の部屋がありました。葉鹿小学校だけではないと思いますが。外から入れるようになっていて、地域の相談室のような感じでした。そういう部屋があると、地域の人たちが集会所のように利用できるのかもしれません。実際にどのように活用しているのかまでは聞かなかつたので知りませんが。
委員 4	教室は空いていないですか。空いていれば神戸で 1 部屋借りたいです。
委員 1	空いてないです。笠懸西小には地域交流室という部屋があって、そういう使い方ができるようになっています。あずま小中学校は今の時点では難しいです。
委員 2	あずま小中学校の前には旧東中学校の建物があります。地域の方が借りたいと言っても貸してくれない、一棟なら貸してくれるという話を聞きました。先日見に行ったら机イス等がそのまま残っていて、もったいないなと思いました。
副議長（副委員長）	雨漏りがひどいのだそうです。
委員 4	部分的には直ったらしいです。排水溝のところに葉っぱ等が詰まっている、それを取ったらだいぶよくなつたらしいです。
委員 2	有効に活用できないかと思っているのですが。
委員 4	貸してくれないというわけではなくて、消防の方で何やら引っかかってしまうので、使える段階にするにはいろいろな手続きを踏んだりお金をかけたりしなければならないから難しいようです。全部貸しますよという話もありますが、今度は電気料金の問題もあるので、使いづらいなとなつたんですね。
委員 2	もったいないなと思います。
議長（委員長）	P T A の側からは何かお考えはありますか。
委員 5	P T A を長年やっていますけれども、だんだん地域の人との交流が多くなっていると思います。地域の方も協力に応えてくれるので、そういう面ではよくなってきてていると思います。でも、それ以上にはなっていないとも思います。地域の人に応援を呼べば草刈り等に来てくれる、運動会にも呼べば来てくれるのですが、その中の子どもたちとの交流はどうかというとそこまでではないなという気がしています。もう少し子ども側から踏み込んであげると大人はもっと近くに寄りやすいのではないかと思います。大人の方からやると子どもは少し引いてしまうかなと。逆に子どもの方から勇気を出して大人に近づいて、地域の方に寄り添えるような環境があればいいなと思います。教育とか学業については、問題なくやっていると思っていると思うので満足はしています。
委員 6	学校によく来てくださる方は、何か役をやっている方が多いので、毎回同じ

	<p>のような方が多いかなと思います。他の地域の方たちが学校や子どもに興味を持っているのかどうかも分からぬよね。私たちもそういった方たちと直接お話をするわけでもないですし。その方たちにお孫さんがいて学校に行っていれば興味はあるでしょうけれど、東町にお孫さんがいらっしゃらない方が多いから余計に興味が湧かないのかなと思います。なので、学校側からアプローチしただけではなかなか難しいのかなと思います。区長さんとかみんなで協力してやっていく必要があるのかなと思います。東町全体でどうにか取り組んでいかないと難しいと思います。これからもしかしたらもっと子どもが減るかもしれないし、増やそうとはしていると思いますけれどどうなるかわかりません。周りをもっと巻き込める何かをすれば、地域の方がもっと学校に興味を持ってくれるのかなと思います。</p>
議長（委員長）	ちえのみ保育園からは、学校の地域との交流についてどのように見ていますか。あまりそういった情報は届かないですか。今保育園と小中学校のところはあまりつながっている感じではないですか。
委員7	地域を巻き込んで、ということはほとんどないです。生徒と園児との交流ということであれば、年に1回家庭科の学習で中学生が実習の一部として来てくださって1時間程度交流するということがここ数年続いている感じです。
議長（委員長）	地域との交流については、あずま小中学校を考えていく上での大きなテーマ、課題であると思います。この辺りはもう少し時間をかけていこうと思います。委員3さんの話にもありました、あずま小中学校の子どもたちの人数が少ないという問題があります。委員1さんからはもう少し大きな集団で学習させたいという話もありました。資料1の②には「町内はもちろんのこと、他の地域からも通わせたい学校にしていきたい」とあります。現状は東町の子どもたちだけでなく笠懸町や大間々町からも子どもたちが通っています。こういった子どもたちの人数の問題、もう少し大きな集団にしたい、という部分について何かご意見はありますでしょうか。
委員2	やはり他地域から呼び寄せるには、その学校が輝いて見えるような印象を与える取組が必要だと思います。いろいろ方策は考えられると思いますけれど、そういうことがないと距離的なデメリットを埋めることは難しいと思います。スクールバスはあるけれど30分40分揺られてくるわけですから、距離的な問題は大きいと思います。例えば教材費やジャージ代等全て無料にすると、保護者が飛びつきたいと思う何かがないとなかなかこの距離感は埋められないかと思います。みどり市は保育料を無償にしましたよね。それと同じように、保護者が飛びつくような何かが必要じゃないかと思います。
副議長（副委員長）	どうしたら子どもが増えるのか、地域が活性化するのかを考えたときに、やはり活性化するにはある程度の人数は必要だろうと思います。そこで、山村留学について調べてみました。山梨県にある丹波山村で山村留学をやっていて、ここでは教材費、給食費、修学旅行費が完全無償です。保育費も医療費も無料です。住むところが用意されていて、住宅費として月に1万5千円から2万円支払うだけです。 多分教育委員会に山村留学の話をすれば「いい話ですね」だけで終わってし

	<p>まうと思います。「お金がないから」「違うところにお金がかかるから」と。でも、群馬県では上野村や高崎の倉渕村でもやっています。そこにはかなりの労力とお金がかかっていると思います。</p> <p>先日、孫が学校が休みだったのでボルダリングに連れて行きました。その前にあずま小中学校に寄って鳥に餌をあげたのですが、そのときに孫が「すごいいい学校だね」と言つたんです。子どもから自然に声が出たので、やっぱりこのあずま小中学校は雰囲気的にいい学校なんだと思います。だから、東京とか都市部から山村留学させるのではなくても、大間々、笠懸、桐生の子たちが1ヶ月でも半年でも1年でも来られるような方策がとれると面白いと思います。山村留学についていろいろ調べてみたら、真剣にやっているところは泊まれる施設も作って親も一緒に住めたり、子どもだけだけど寮母さんがいて食事の面倒を見たりしています。みどり市はそこまではなかなか大変だと思いますけれど、それならば、バスの手配をして桐生など他の地域から連れて来られるようになれば、かなり賑やかになるのではないかと希望を持っています。いわゆる通いの山村留学のようなものです。そうすれば市も負担は大きくないですし、親御さんもバスの送迎があるなら「いってらっしゃい」と送り出してくれるでしょう。2泊3日などの短期間ではなくて、1学期間とか2学期間とか1年間とか、希望によって入れてみるのはどうかなと個人的に考えていました。</p>
委員2	受け入れる方は大変ですよね。全く新しい子が来るから。
副議長（副委員長）	それはそうでしょうけど、市を挙げて活性化を進めているわけですから、そのくらいの労力を使わないといけないと思います。ただ来ればいいという訳ではないでしょうから。なかなか難しいでしょうけど教員の配置をしていただくとか、そちらの方面に長けたベテランの先生に来ていただくとか、それは市長や教育長の力でできるでしょうから、そういうことをしていただければできる可能性はあるのかなと考えています。
議長（委員長）	今「通いの山村留学」ということばが出てきましたが、現状では大間々や笠懸から子どもたちは来ているんですよね。それは一定程度制度化されているのでしょうか。大間々や笠懸の子どもたちや保護者、学校に対してそういう情報が届くようになっているのでしょうか。そういった制度的な部分を事務局から説明していただけたらと思います。
事務局1	今年から、笠懸や大間々からスクールバスで通えるようになりました。今までは、あずま小中学校の教育内容や少人数の個別最適な学びに興味を持つ方がいらっしゃったと思いますが、通学手段が渡良瀬渓谷鉄道だけでした。昨年度、笠懸や大間々から通う児童生徒は3人いました。1人卒業し、新たに6人加わったので、今年度は8人になりました。今まで興味はあったものの通うのが大変で通えないお子さんが、スクールバスが導入されたことによって通えるようになったからだと思います。そこは大きかったと思います。制度的な面で言うと、あずま小中学校は小規模特認校となっていまして、市内のどの地域からも通えるようにしています。また、広報活動では、就学時健康診断や入学説明会のときに、こういった制度がありますと紹介をしています。
議長（委員長）	本格的な周知は2025年度からということでしょうか。それとももっと前

	から行っているのでしょうか。
事務局 1	周知は前から行っていましたけれど、バスが通るようになったこと、より特色ある教育を進めていることを強く押し出したのは昨年度からです。
議長（委員長）	このような形で通いの山村留学的なことを行っているということですね。
委員 3	<p>周知については、周知しているとはいえあまり気に留められていないというのが現状かと思います。私立の学校だとオープンスクールをやったりして学校の現状を強く発信してます。今、いろいろな形の学校があり、通学できないお子さんがどうやって教育課程の履修を認めてもらえるようにするか悩んでいる親御さんはたくさんいると思います。</p> <p>また、人数が少なく個別によく見てもらえるような刺激の少なさは、子どもによってはうれしいことです。例えば自閉的な傾向が少しもあるお子さんは、クラスの人数が多くなければ多いほど、クラスにいるだけでとても苦労しているようです。そういうお子さんはたくさんいると思うので、個別に配慮しているところのよさを学校から具体的に説明したり、施設設備を見ていただいたりするような機会を設ける必要があると思います。周知をするというならば、このくらいやらないと周知にはならないと思います。できるかどうかは別として。</p>
議長（委員長）	先日一日あずま小中学校にお邪魔して、午前から子どもたちの帰りまで拝見させていただきました。そのように実際に保護者の方が訪問することもあります。その保護者がどのように情報を得て当日いらっしゃっているのかは分かりませんが、もっと広くしっかりと周知した方がよいという話ですね。
委員 3	個別に申し出るのはなかなか敷居が高いので、「こういう機会がありますよ」というアナウンスがあると、少しは広く知ってもらえると思います。
副議長（副委員長）	私も山村留学について調べたいと思ったときに、今はインターネットで調べられるから、あずま小中学校でもホームページに掲載できるような取組や情報があれば掲載していくとよいと思います。ホームページに出せば、子を持つ保護者でしたらよく見ているでしょうから、そういう方法もあると思います。
委員 1	オープンスクールという点に関して言えば、12月20日に文化祭を計画しています。それが3時間目から始まるのですが、2時間目は広く授業を公開するという形になります。文化祭の一日のスケジュール等が決まったら学校のホームページにアップする予定ですし、その旨を市教委から就学時健康診断の時に言っていただいています。なので、ホームページを見ていただいている方がいれば、この日は自由に見られるんだなという情報は得ていると思います。
副議長（副委員長）	ネットで検索したときにはっと出てくるようになっていればもっと便利だと思います。例えば「山村留学」のページの中に、群馬県みどり市のあずま小中学校の取組が分かるページを作って載せられるとよりよいかなと思います。
議長（委員長）	<p>現在も進めている東町以外からの児童生徒の受け入れ、言葉としては「通いの山村留学」の話がありました。こちらは時間をかけて検討していいともよいかと思います。</p> <p>ここからは保小中一貫教育校についての内容に移ります。保小中に移行していくことが学校の活性化につながるという考えでしたが、事務局からの提案について話をしていただけたらと思います。</p>

事務局2	東町の課題としては、みどり市全体もそうですが、人口減少が挙げられます。東町ならではの地域資源を生かして交流人口や関係人口を増やしたり、移住の増加や定住人口の維持を図ったりすることを目的として、「みどり市東町地域ビジョン」をつくらせていただきました。その中では、人口減少を抑制するためには次の4つの目標を設定しています。「交流人口を増やす」「関係人口を増やす」「移住者を増やす」「転出者を減らす」ことです。これらの目標について、様々な分野で取組が行われているところです。東町の年齢別人口を見ると、14歳以下の人口の割合が一番低い現状があります。この課題を解決するためには、教育だけでなく、子育てあるいは生活基盤が1つにならないとなかなか人口の増加は見込めないのではないかと思います。そこで、若い世代の人口減少を食い止める意味でも、今回東プロジェクトとしまして、保育・義務教育を核とした東地域の振興策をつくらせていただきました。その中で、保小中一貫教育を実現していくことで東町の年少人口の増加を図っていきたいと考えています。東町の人口増加には、働く場所や経済効果、特産品といった部分の発展が欠かせません。こうしたことを一体的に考えていくときに一番重要な部分が保育・義務教育を核とした学校の設置ではないか、ということで保小中一貫教育を構想し、提案させていただいたということです。少人数を生かしたきめ細やかな教育環境を提供して、東町の自然や特徴を最大限生かした教育環境を子育て世代にアピールしていくことが、人口増加につながっていくのではないかと考え、今回このような提案をさせていただいている。
議長（委員長）	今のお話は、資料としては第1回の検討委員会で配布されています。基本構想策定の背景の中で、0～14歳の人口を増やしていきたいという考えがあつて保小中一貫教育の話が出てきています。
委員2	一番知りたいのは、保小中一貫の構想がどこから出てきたのか。先ほどの説明では、東町地域ビジョンで決まったという話でした。なるほどそうかと思いました。どこから出てきたのか知りたかったので。
副議長（副委員長）	東町地域ビジョンでは、学校の統合の話は出てなかったですね。私は会長でしたけど。さっきの説明だと保小中一貫校の構想が地域ビジョンから出たように聞こえてしまったのですが。
事務局2	東町地域ビジョンで14歳以下の人口が減少している現状を考えたときに、学校の児童生徒数が減っていることが1つの大きな課題ということで、そこから東プロジェクトという発想がでてきました。
副議長（副委員長）	つまり、その考え方は市の方で考えたということですか。地域ビジョンで考えたのではなくて市長部局や教育部局で考えられたということですね。
事務局3	東町地域ビジョンですが、人口減少を2%に抑えるということで5年間で事業に取り組んでいまして、32事業行っております。様々な事業に取り組んでいますが、なかなか人口減少の抑制につながっていないのが現状です。そこで、この目標を具現化するために、東プロジェクトで保小中一貫教育校を設立することになりました。
事務局2	つまり、東プロジェクトは市の方で考えたプロジェクトになります。
副議長（副委員長）	多分我々が人口増加に向けていろいろな事業を考えている中で、市や教育委

長)	員会の方で学校も保小中でまとめた方がいいのではないかという考え方で進んだのだと思います。
事務局 1	付け足しになりますけれども、東プロジェクトから出てきたということで、保小中一貫教育校というものを進めたらどうかという話が教育委員会にもありました。そこで、保小中一貫教育にはどんな意義があって、どんな価値があるのかということを調べ、第1回の検討委員会でその意義を説明させていただきました。子どもたちにとっても教育の内容にとっても地域にとってもメリットはあるということです。それを説明させていただいたのが前回でした。詳しくは資料を見ていただけたらと思います。
議長（委員長）	保小中一貫教育については具体的な制度問題に発展していきますので、ちえのみ保育園側のご意見を伺えたらと思いますがいかがでしょうか。
委員 7	ちえのみ保育園の職員や保護者にとって死活問題になります。まず、移転することで退園する園児はいます。移転の問題が出た時点で「神戸？とてもじゃないけど通えません。」移転する時点で引っ越しします。申し訳ないけど退園を考えています」ということで、何人かから話を受けました。移転の話は1月だったと思いますが、私たちは寝耳に水の状態で話を聞いて、保護者からはそのように言われてしまいました。何人が残るお子さんをリストアップしたところ、おそらく3名しか残らないのではないかと思います。それが現状です。先ほど事務局の方が「子育てと生活基盤を整える」と言っていましたが、子育てをしている母親、20代30代40代の世代に焦点を当てなければ絶対に人口は増えないといます。今の若い人は、ネットで買い物をするとか100円ショップを利用するとか、そういう生活基盤の方が多いと思います。また、子どもが熱を出したり怪我をしたりしたときに、すぐに病院に行けるかという問題もあります。ちえのみ保育園の保護者の中には大間々や笠懸、遠い人は伊勢崎で働いている方もいます。怪我をしたからお迎えに来てくださいと言ってもすぐに来られるわけではなく40分50分時間がかかります。保育園が神戸に移転したらさらにもう10分かかります。この10分はとても大きいです。特に女性にとっては。自分たちの生活が崩れると感じています。実際に保護者からあった話ですが、東町は生活がしづらいです。買い物するところもないし子どもが急病でもすぐに診てくれるような病院がありません。母親たちはどうしてもそこに焦点を当ててしまうので、保育園と小学校と中学校が教育で強く結び付いて、そこに今の親たちが魅力を感じるのかなと疑問に思います。保育園には保育園でしかできないことがあります。0歳から就学前までしか経験できないことはたくさんあります。そこが崩れてしまうのではないかと不安です。幼児期のあのかわいらしさを見たい、成長を見届けたいという親はいると思います。今大間々から通っているお子さんの中には、就学を見据えて今年度いっぱいで退園するというお子さんもいます。ちえのみ保育園が移転しても入れたい、卒園後は必ず小中学校に通わせたいという保護者はあまりいないのが現状です。先ほど委員2さんからありましたが、なぜ保育園と小学校を一緒にする、そこが魅力で子どもが増えるという考えになったのか、自分だけでなく他の職員も思っているところなので、市の方に何度も質問を投げかけました

	が、「プロジェクトの一環で、とがった政策をしなければ子どもは増えない」という説明が何度もあったので、仕方ないのかな、私たちが飲み込むしかないのかなと。職員、保護者、子どもの気持ちが置き去りにされているような感覚は正直あります。もう少し寄り添った政策や考え方、説明があつたらもっとよかったですと思います。
委員 6	今、ちえのみ保育園には何人くらいお子さんがいますか。
委員 7	14名です。
委員 6	移転したら退園しますという方が結構いらっしゃって、3名しか残らないということは、10名くらいが退園するということですか。
委員 7	今年度末で卒園するお子さんもいます。そして、新しく入園するお子さんは向こう3年間いらっしゃらないです。なので、来年度は入園者数は0名です。
委員 6	そのまま今のところでちえのみ保育園が続いたとしても、立ちゆかなくなる可能性もあるわけですね。
委員 7	あります。ちえのみが花輪にあれば、卒園まで通わせたいなと思っている方もいらっしゃるので、神戸に移るというのは正直少し痛手だなと思います。
委員 6	私には子どもが3人いて、一番下が今度高校に行きますけど、確かにおっしゃるとおり不便は不便です。病院もないですし。それでも3人育ててきていますので、できないこともないのかなと思います。現にやっている人がいますので。職場が遠いなど、家庭によって事情は違うと思いますけど、がんばればできることはないのかなとお話を聞きながら思いました。
委員 5	ちえのみ保育園にスクールバスってあるんですか。
委員 7	昔はあったのですが、運営しなくなってしまいました。
委員 5	今は親の送り迎えだけなんですね。あづま小中学校と一緒にになったらスクールバスが出るようになるのでしょうか。
副議長（副委員長）	昔汽車バスがあって、それがワゴン車に変わったんですよね。
委員 6	送迎バスがあったときも東町の中だけですよね。
事務局 2	スクールバスについては、保小中一貫校の関係で、バスを出していいけるよう検討しているところです。
委員 6	保育園の園児も拾ってくれるようになるのでしょうか。
事務局 2	それができるように考えているところです。
委員 5	そうしていただかないと。特に遠くから来る子は大変でしょうから。
議長（委員長）	今、委員7さんから話がありましたが、もし保育園が花輪から神戸に移転したら退園する園児がいる、仮に花輪から移転しなくても存続が危ういという話でした。園児の数の問題やそのことを考える保護者の意向について、保小中構想の中ではどのように議論されたり把握されたりしていたのでしょうか。
事務局 1	昨年、園長先生からこども課の方に相談があったんだと思います。このままいくとちえのみ保育園に通うお子さんがいなくなってしまって、ちえのみ保育園が存続できない可能性があると。地域に学校や保育園がなくなってしまうというのは大変なことだと思います。それを何とかしていくために、特色ある教

	<p>育・保育というものを打ち出して、持続可能となるようにしたいと考えました。先ほど雇用の話もありましたけれども、ちえのみ保育園で働いている先生方が何人もいらっしゃいますが、ちえのみ保育園がなくなってしまえば働き先がなくなってしまう、雇用がなくなってしまうということになり、それはとても大変なことだと思います。保育の様子を見学させていただくと、本当に一生懸命やってくださっていて、ずっと前から素晴らしい保育をやっているということは十分分かっています。しかし、このまま何も手を打たないでいてはなくなってしまうのではないか。園長先生も昨年の説明会の時に同様の危機感を持っていました。そのことも含めて、特色ある教育・保育を打ち出して、小中学校にはすでに大間々・笠懸から来ていていますけれども、そういうような取組を進めていく必要があると思います。この会は、それを先に進めるようなご意見をいただけるような会となるとありがたいと思います。</p>
委員 3	<p>今までの事務局からの説明をお伺いしたときに、「保小中一貫校になることで特色が…」とありましたが、全くイメージが湧かないです。私が保護者だったら、「保小中が一緒になりますよ。特色があって保育園も素晴らしいですよ」と言われても、保育園が小中学校と一緒になることで、保育園にどんなメリットがあるのか、どんなよい特色が生まれるのか、そのイメージが湧くようなものが何もないと思います。私が鈍感で分かってないだけかもしれません、いろいろ話をうかがっている中だと、「保小中一貫にします。特色があるのでそこに魅力を感じていただきたい」と言われても、どんな魅力を作ろうとしているのか方向性のかけらも見えません。それは、どなたが提案していくことなのか。保育園と小中学校がつながったら、小中学校の方はどんなつながりで特色を出していくのか。この辺りが一番大きい課題だと思うのですが、あまりにも見えてなさ過ぎるので、それを考えていく必要があるのではないでしょうか。</p>
副議長（副委員長）	<p>保育園や園児の保護者に対しては、メリットについてもデメリットについても説明がなくて、ただ小中学校と一緒になる、神戸に移転するというイメージになってしまっていると思います。たった10分の違いですが、親としては大きな負担でしょうから、魅力がなければ行かないということになってしまうと思います。もし事務局で保育園づくりや制度づくりについての構想があってそれが聞ければ考えが変わるかもしれません。</p>
事務局 1	<p>前回の検討委員会で、委員3さんから「交流しただけでは価値がない」というお話をいただいたかと思います。その中で、本日の協議内容③に、意義の高い保小中一貫教育を実践するための具体的な取組とは、と挙げさせていただいている。まさにここが大事なところで、これから学校と保育園が、教育課程や保育課程等を突き合わせてよりよいものを作っていくということが大事だと思います。そのときに、学校と保育園をつなぐコーディネーター的な方を置いてやりとりをしながらよりよいものを作っていく開校までに準備していくという流れがとても大事だと思います。具体的には、学校行事、給食の時に先生方のお手伝いをしたり掃除をしたりすることが考えられます。行事で交流するのは比較的当然ですけど、それだけではないものもできるのかなと思います。私は学校サイドからしか考えが出てこないので考え方方が狭いかもしれません。</p>

	でもいろいろなことが考えられるかと思いますので、これから開校に向けて何年かかけて進めていくことが大事なんだろうと思います。
副議長（副委員長）	初めから小中学校と保育園とで連携してやろうということに無理があるのでないかと感じています。保育園が花輪から神戸に移転することでどんな保育園になるのか、どんな保育園ができるのか、そういう協議を先にやって、小中学校との連携はまだ考えなくていいのではないかと思います。
事務局1	まずはいい保育園を作ることが当然だと思います。その準備の中で保小中一貫が打ち出されたのであれば、開校までに、あるいは開校してから作っていけばいいと思います。こちらとしては、ビジョンが出てきて、教育としてはこんなことができるのではないか、保育園がなくなってしまうのはどうしても避けなければいけない、ということで考えが打ち出されているのだと思います。
議長（委員長）	子どもへの見方・感じ方について、園児の親と小中学生の親は少し違っているように思います。委員7さんが言っていたように、保育はあくまで保育であって教育とは少し違う部分があり、保小中をうまくつなげができるかイメージはなかなかつきづらいと思います。事務局からはそのつながりを作っていくという話があり、副委員長からは保と小中は分けて考えた方がよいという話もありました。 時間の関係もありますので、次回に向けて保小中のイメージのようなものを事務局の方から提示できますでしょうか。内容的には今の事務局1さんの話以上のものを。
副議長（副委員長）	これはこども課は関係してないですか。
事務局1	第1回でお示しした資料は教育委員会で作成したもので、こちらは学校側から見たものになります。
議長（委員長）	学校教育からの観点はこちらに出ていますので、保育の側から見たらどうなのかという部分がほしいです。そこが見えてこないと、保育園はただでさえ存続の問題があるわけですから、どうつないだらいいか考えることは難しいと思います。保小中一貫校は制度化された問題になってきますので、今後どうなっていくのかというイメージができるものを事務局から出していただいて、その上でここで議論していければと思います。対応は可能でしょうか。
事務局4	第1回の検討委員会で保小中一貫教育校の基本構想をご説明させていただいております。その中で、保小中の連携コーディネーターを置きまして、今後、保育園の関係者の方、義務教育学校の関係者の方と意見を交換しながら、どんな特色をもった学校を作ろうかというところについて市も入りながら検討していく段階でいますので、今の時点でどんな学校になるかについて事務局から提案するタイミングではないと考えています。
副議長（副委員長）	それは分かるのですが、こども課等保育に関する課も一緒になって協議した方がいいのではないかと思いますが。
事務局4	ちえのみ保育園さんの方には、新たな保育園を作るということで足を運ばせていただいたところですけれども、内容を市が作ってしまうのはいかがなものかというお話をいただいておりまして、一緒にいいものを作っていきましょう

	という話をさせていただいている。なので、最初に市が「こういう保育園を」という提案はしたくはないと思っています。
副議長（副委員長）	委員2さん、協議はされているのですか。
委員2	説明はありましたか、協議は行っていません。
事務局4	まだ協議の場まではいっていない状況です。
委員2	そうすると、この検討委員会では意見をまとめるのは難しいのではないか。全く何も分からぬのであれば意見も出しづらいと思います。何か手元にないと。
議長（委員長）	学校教育の比重が大きくて保育の部分が少ないように思います。保小中といいながらも結局は小中だけになってしまっているように思います。そうではないんだということであれば、もう少し保育の部分をイメージした何かが必要になると思います。例えば前回の資料でも、保小中一貫教育による特色ある教育課程概要という形で出ていますが、このあたりについては学校教育側からの見方が中心になっています。もう少し保育の側から、保護者のニーズも含めてのイメージも出てくるといいですね。
事務局4	そのイメージを今後具現化させるために、これからお話しをさせていただきたいと思っています。
委員1	学校側の話になってしまふかもしれません、保小中一貫教育は、制度がどうのというよりは、教育の質を高めるための土台を作っていくましょうということだと思います。だから、保小中が一緒になったからといって、今小中学校1年生から9年生という呼び方をしていますが、そういうふうになるわけではないと思います。保育は保育、教育は教育で別のことだから、保育園は保育園としてそこに存在する必要があると思うし、その保育の部分と教育の部分をどうつないでいくかが、私たちが工夫するところだと思います。だから、最初から「これが魅力です」という部分を作っていくのは難しいし、魅力はこれから連携できることをしながら作っていくものかなと思います。もし同じ敷地内に保育園児が来たらきっと小学生も中学生も喜ぶと思います。一緒に遊んだり行事で一緒に何かをやったりすることもできると思います。今職場体験学習で保育園にお世話になっている生徒もいますけれども、そういう体験がもしかしたら日常的にもできるかもしれません。保育園の子どもたちにとっても、少し年齢の高い子どもたちと接することで、また違った学びが生まれるかもしれません。そういうものをこれからみんなで作っていきましょうということだと自分は捉えています。だから、例えば今小中学校でやっている英語教育やプログラミング教育、異学年交流といった部分が保育園さんと一緒に巻き込みながらできるのであれば、工夫をしていきたいと思っています。これからどんな魅力をみんなで作っていけるのかということを考えるのがスタートなのかなと思います。
副議長（副委員長）	それはその通りだと思います。ただ、今保育園側とすると「移転するメリットは何？」ということだと思います。
委員1	保育園が移ったとしても、「いい保育園だね」と言われるような保育園には絶

	対にしていかなければいけないと思います。
議長（委員長）	保小中一貫校については、事務局から何かを出すのではなく、この場で協議したいということですね。
事務局1	この場ではご意見がいただければいただいて、それを参考にしながら詰めていくことになります。ここで全部決めるわけではありません。とっかかりの部分をお話ししていただいて、それとともに保育園と小中学校が一緒になっていいものを作っていくことになります。もともと教育課程や保育課程は学校や園が作るものですから、市が示すものではありませんので、そのように作っていくのが正しい方法だと思います。
議長（委員長）	次回は、保小中の保育側からのイメージと、あずま小中学校の充実した教育課程にどうつないでいくか、どんなメリットがあるかを話題にしたいと思います。ちえのみ保育園からは保育の仕組みや保護者の要望等保育園に関するをお話できるようにしていただいて、学校教育のイメージとうまく接合させていくことについてディスカッションをしていってはどうでしょうか。
委員2	それはなかなか難しいのではないでしょうか。知らない人はただ座っているだけになってしまふと思いますが。
議長（委員長）	難しさはあると思いますが、第1回の資料を基にしながら保育側からのイメージを重ねてディスカッションしていきたいと思います。
委員4	でも、委員7さんが言っていた保護者が感じているデメリットについて、その解決策を出してもらわないとなかなか保護者は納得しないと思います。そういう提案もしてもらいたいです。ダメだと言っているところをそのままにして議論を進めてもよくないと思います。そのあたりは事務局からいい案が出ればと思います。スクールバス等あると思いますが、できれば具体的に。
議長（委員長）	すでに退園の意思がある方もいるという話もありましたね。
委員4	それが大きいですよね。そこをクリアできる何かがないといけないかなと思います。
議長（委員長）	保小中の保育側からの意見を出していただきながら、今出ている課題やデメリットに対する対応案を事務局から出していただきながら議論をしていきたいと思います。 それでは協議事項（1）につきましてはここで区切りたいと思います。（2）については次回に持ち越したいと思います。

（2）給食提供方式について

- ・会議終了時刻を過ぎたため、次回委員会に持ち越し。

4 諸連絡

第3回委員会　日時　令和8年2月18日（水）18:30～
会場　東公民館　ホール1・2

5 閉会